2025-2026 WEEKLY BULLETIN
5月14日(木) 第32号
第2510地区 Rotary 札幌東ロータリークラブ

第3158回 例会

本日のプログラム

プロゴルファーが教える、わかりやすい伝え方
PGA日本ゴルフ協会 会員　七戸勇介 氏

新会員卓話 穴田秀樹 会員

北海道電子機器株式会社の穴田と申します。このたび新会員として卓話の機会をいただき、これまでの経歴や現在の取り組み、また仕事に対する考え方についてお話しさせていただきます。

私は新卒で当社に入社し、長くエンジニアとして電子機器の開発に携わってきました。入社当初は回路設計やソフトウェア開発など、目の前の技術課題に対して自ら手を動かして解決していくことが中心であり、設計したものが思い通りに動かない中で原因を切り分けながら一つずつ解決していくという経験を重ねてきました。こうした試行錯誤の積み重ねが、現在の仕事の進め方の基礎になっていると感じています。

約5年前より経営を担う立場となり、現在は自分で設計や実装を行うことはほとんどなくなりましたが、仕事の本質が大きく変わったという感覚はあまりありません。個別の技術課題に向き合っていたものが、組織や事業全体の課題に置き換わっただけであり、問題を分解し、構造的に整理しながら判断していくという考え方は、技術者としての経験と連続していると感じています。

当社は、計測・制御・伝送といった分野を中心に、ハードウェアとソフトウェアの両面から電子機器の受託開発を行っています。主にメーカーや商社からの依頼を受け、それぞれの目的や条件に応じて個別に設計を行う、一品一様の開発が特徴です。同じように見える装置であっても、使用環境や求められる性能、運用方法まで異なるため、その都度前提条件を整理し、最適な構成を考える必要があります。このような積み重ねが、当社の技術力だけでなく課題解決力としても蓄積されてきていると感じています。

開発の対象には、ダムの観測装置など社会インフラに関わるものも含まれています。例えば斜里町のオシンコシンの滝周辺において観測機器の提供を行った際には、現地の厳しい環境条件や設置方法を考慮しながら進める必要があり、単に機器を設置するだけではなく、長期的に安定して運用できる形を検討することが求められました。その結果として感謝状をいただく機会もありましたが、こうした取り組みは特別な社会貢献活動というよりも、目の前で必要とされていることに対して自分たちの技術で応えてきた結果であると捉えています。日々の業務の中で自然に社会との接点が生まれている点において、ロータリーの掲げる職業奉仕の考え方と通じる部分があると感じています。

現在は、こうした計測や制御の技術を活用し、現場の中で見えにくい課題を整理し解決につなげる取り組みに力を入れています。単なる装置開発にとどまらず、課題の把握から設計、実装まで一貫して関わることで、実際の現場で機能する形に落とし込むことを重視しています。そのため、一定の時間やコストがかかる場合もありますが、結果として現場で継続的に活用される仕組みを作ることが重要であると考えています。

また、組織の面でもいくつかの変化を進めてきました。人材の確保という観点から外国人材の採用を進めるなど、多様な人材が関わる体制づくりに取り組んでいます。言語や文化の違いもあり、最初は意思疎通に苦労する場面もありましたが、前提条件を共有しながら進めることで徐々に安定して業務が進められるようになってきました。また、事業の内容や方向性の違いに応じて会社を分けるといった構造的な整理も行ってきました。

いずれの取り組みも最初から明確な正解があるものではなく、小さく試しながら調整していくことを重視しています。経営に関わる中で何を優先するかという判断を求められる場面は増えましたが、その際に一つの基準としているのは「長く続くかどうか」という点です。短期的な成果だけでなく無理なく継続できる形を重視することで、結果として安定的に価値を提供し続けることにつながると考えています。

同じ仕事や同じ場においても、そこにどのような価値を見出すかは人それぞれ異なります。私自身も試行錯誤を繰り返しながら、自分なりの判断基準を少しずつ明確にしてきました。今後も仕事を通じて社会との関係性を意識しながら、持続的に価値を生み出していきたいと考えております。

■本日のロータリーソング
君が代、四つのテスト

2025-2026年度
国際ロータリー会長のメッセージ
国際ロータリー会長：フランチェスコ・アレッツォ

よいことの
ために
手を取りあおう